



高崎経済大学地域科学研究所 第7回地元学講座

高崎五万石騒動

百姓衆の願い・今に生かすこと

高崎五万石騒動は、1869年（明治2年）から71年の足掛け3年間ねばり強く戦われた年貢軽減運動です。旧来の体制が崩れる一方、新しい体制が確立途上のこの時代、高崎藩5万石領の民衆は、自らの生活確立に向けて行動を起こしました。高崎藩は、周辺地域と異なり重い年貢が百姓を苦しめ、多くの村々でその改善を要求してきました。新しい時代になり、今までの要求を高崎藩全域の百姓が連帯して藩へ直接要求運動を起こしたのです。その基本的要求は、①畑の年貢を貨幣で納められるようにすること、②年貢を周辺地域と同様に軽減すること、でした。年貢軽減を求めたものですが、内実は租税制度の改革運動でした。

この要求を実現するため、百姓たちは高崎藩内の村々に組織を作り、城への押出し・中央政府への直訴など知恵と力を合わせ、厳しい処分を受けながら要求の実現を達成しました。

この百姓衆の思いは何であったかを考え、今に生きる私たちがそれをどう生かしていくかを一緒に考えていきたいと思います。

講師：女屋 定俊 氏

（高崎五万石騒動記念行事実行委員会 実行委員長）

日時：2019（令和元）年10月2日（水）

16時00分～17時30分

場所：高崎経済大学1号館111教室

*** 入場無料・事前予約不要**

《講師プロフィール》 女屋 定俊（おなや さだとし）

1943年（昭和18年）高崎生まれ、76歳。

高崎五万石騒動の大総代（3人のリーダー）の内、佐藤三喜造・高井喜三郎の祀られる下中居町・柴崎町の隣り町内（上中居町）在住。

1966年（昭和41年）から37年間、群馬県内の高校の社会科教員として勤務。その間、「高崎五万石騒動研究会」を立ち上げ、市民の皆さんと「顕彰運動」に取り組み、五万石騒動を記念する「義人堂」前での義人祭などを行ってきた。昨年は騒動150年記念行事で「城押出し」の再現などを行った。

《お問合せ先》 高崎経済大学地域科学研究所

（事務局 研究グループ研究支援チーム）

電話：027-344-6267

E-mail：chiikikagaku@tcue.ac.jp